

図書館だより

第36号 平成17年12月15日
高松工業高等専門学校図書館
TEL (087) 869-3813
FAX (087) 869-3948

平成17年度千ページ読破記入賞者

優秀賞 1万ページ読破を5年間続けて 5年C組 黒田 望(くろだのぞむ)
佳作 文字から伝わる心 3年E組 柏木 崇秀(かしわぎたかひで)
佳作 北川さんの作品を読んで 2年C組 三谷 汐里(みたにしおり)
応募数 176編

読破記講評

一般教育科 国語 長谷川 隆



図書館主催の、夏休み千ページ読破記コンクールに、今年度は176編の応募がありました。今年で15回目にもなります。1冊読むとそれに触発されて次々と本を読みたくてくるという思いを経験した人は多いでしょう。千ページ読破記は、そのような、ただただ本を読み耽りたいという思いに応えるために企画されたものです。今年もそのような、読書の広がりを感じさせる読破記が多いことを感じました。

優秀賞は建設環境工学科5年生黒田望君の「1万ページ読破を5年間続けて」です。1年生のときに、夏休みに1万ページ読破することを決意し、5年間続けています。1年次は佳作、2、3年次は優秀賞になりました。最高学年の今年度は優秀賞です。他の読破記との違いは、読む量の桁が1つ違うことと、それにもかかわらず、読んでいる本の難解なことです。今年度はマルクスの『資本論』に挑戦しています。私には学生時代に『資本論』

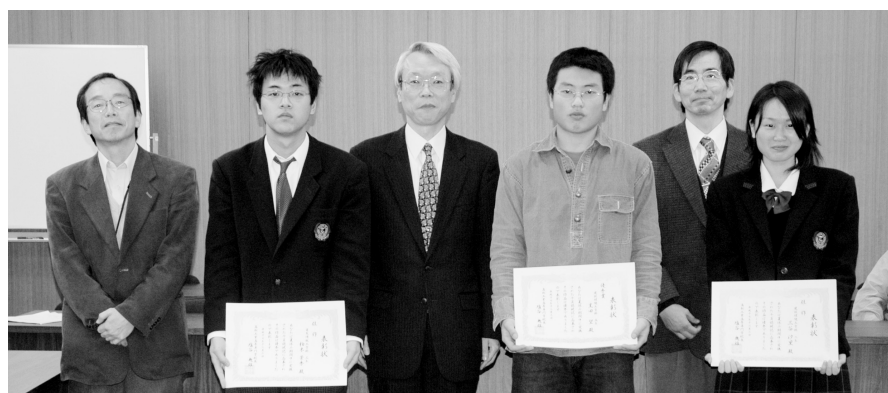
読破に挫折した経験があります。正直脱帽です。

佳作の1編目は、電気情報工学科3年生柏木崇秀君の「文字から伝わる心」です。考えてみると、単なる黒い模様でしかない文字から心が伝わってくるということは不思議なことです。そのような素朴な驚きが読破記からは感じられました。これからもこの驚きをなくさず、読書に親しんでもらいたいと思います。

佳作の2編目は、建設環境工学科2年生三谷汐里さんの「北川さんの作品を読んで」です。読書をする心に残る言葉があります。北川悦子さんの作品を読んでそのような言葉に出会い、立ち止まり、自分が「偽善者」なのだと思い、「素直なのが一番なんだな」と感じています。貴重な思いです。

ところで、夏休みの「読書感想文コンクール」の方の入選作については、「高松高専だより」に、優秀賞を載せています。「図書館だより」にはその佳作3編中1編だけを掲載することができました。1年2組三谷口進哉君の「34丁目の奇跡を読んで」です。子どもたちを喜ばせることしか考えていない老人が主人公です。わたしもこの作品を読んでみたくまりました。

(はせがわ・たかし)



1000ページ読破記 優秀賞作品

1万ページ読破を5年間続けて

5年C組 黒田 望

5年間、千ページ読破記をやり続けました。自慢といえば、千ページではつまらないと思い、勝手に一万ページ読破記にしてきたことです。そして、毎回何らかのテーマを持つようにしてきました。お蔭で、夏が近づくと今年は何を読もうか、何をテーマにしようかと考えるようになりました。

とはいえ、1万ページはやはり長かったです。時には内容を知るために本を読むのではなく、ページ数を稼ぐためにただなんとなく本を読んでいるということもありました。5年間の読破記を通して得たものは、つまらない本、気の乗らない本をいかに完読するかという能力だったかもしれません。

何度か、千ページだけに限定し、じっくりと千ページ分の本だけを読もうとしました。しかし、千ページ分の本となると、文庫本で3～5冊程度にしかありません。どんなに悩んでも、自分の読みたい本を3～5冊に絞ることなんて出来ませんでした。挑戦はしましたが、本棚の前で延々と時間が流れていくだけでした。あれも読みたい、これも読みたいと、キリがありません。

面白いことに、読破記をして一番楽しく読めるのは最初の1冊と、一万ページ読み終わったあとの一冊なのです。自分が読みたい本ばかり思いつき選んだはずでした。そうであるにも関わらず、本を選んだ時のやる気はだんだんしぼんでいきます。途中で面白い作品を読んだとしても、どこかで、一万ページという数字が頭をよぎり、集中できません。長い一万ページ読破記において、最も価値ある瞬間は、2つだけ。テーマを決めて意気揚々と読み始めるあの瞬間、一万ページという数字に追われることなく自由に読めるあの瞬間。共にいいものです。

今回、私が夏休みに読む本を決めたのは春休みのことでした。松原先生から面白い話を聞いたのです。先生は二十歳になった記念として、誕生日から一週間ずっと本を読んだらしいのです。学業もそっこのけにして。もちろん、一週間かけて読むのですから、半端な作品では物足りません。先生はフランス革命について書かれた長編の歴史書を読んだとおっしゃっていました。しかも、いきなりでは難しくとても読めたものではないので、事前に勉強しておいたらいいです。私は、この話を聞いてこの夏のテーマを決めました、ものすごく難解で、長いものを読もう。

私が一週間ぶっ通しで読む本と聞いて、最初にひらめいたのが「資本論」でした。内容が難しく、しかも長い。一生読むことはないだろうと思って

いましたが、「資本論」に対する憧れは捨てることはできませんでした。

多種ある難解な本の中でなぜ「資本論」かといえば、政治に関することが原因です。しかし、それだけでなく、学生運動への複雑な感情も混じっています。60年、70年代の学生は、様々な経済書、思想書、哲学書を読んで学ぶ姿勢があったそうです。そうでなければ、あれだけの本を読むことは出来ないのでしょうか。無茶苦茶なこともしたようですが、必死に勉強していたと聞きます。そんなすごい人達が読んでいたものを、一度は読んでおきたい。そういった感情がずっとくすぶっていました。それが、今回爆発したのです。

今回は「資本論」を理解することが目的でなく、読破することが目的です。ただ、読んだだけ、というのでは勿体ないので少しでも理解できる部分を増やそうと、事前に「資本論」に関する本を読んでおきました。しかし、甘かったです。関する本を読んでいたときから何を書いているのかわからない、ということの連続でした。？を重ねながらいくつもの本を読み、最終目標の「資本論」に辿り着きました。

わかったこと

- ・産業革命の頃の労働条件はとにかく酷かったらしい
- ・M-C-M, G-W-Gというものがある

わからなかったこと

- ・多数、ほとんど
- ・種々の計算全般

最近、「資本論」が再びブームになっているそうです。どこで？、と思いましたが、新聞業界、出版業界ではそうなっているようです。「資本論」のhow to本が出たら、もう一度挑戦してみようと思います。

これでようやく、極上の一冊を読むことができます。問題は、図書館に行くと読みたい本であふれかえていることです。何から読むか、どこまで読めるか。極上の一冊のために今、必死で悩んでいます。

カール・マルクス 資本論 3,120
不破哲三 レーニンと「資本論」 2,161
その他資本論関係本 2,137
空中ブランコ等小説 3,486
計10,904ページ

(くろだ・のぞむ)

1000ページ読破記 佳作作品

文字から伝わる心

3年E組 柏木 崇秀

まず、この千頁読破記を選んだ理由だが、“毎年選んで書いているから”とか、“一番手頃で書きやすい”という、大雑把なものしかない。けれども、結局のところは今年も本を読む機会を与えてくれてよかったと思う。

今回読んだ本は、自分で選んだものから友達に薦められて借りたものなど様々だが、どれも読みやすく入り込みやすい世界観だった。一部の本は難しい内容であり、それぞれ別の見解ができそうな物語であったが、どれも最近のマンガ風な設定だったのでスラスラと読むことができた。

千頁という量は、この手の小説だと4、5冊といったところだ。夏休みという長期休暇を利用して読むにはちょうどいいと思う。そして、これくらいの量を読めば、「読んだぞ！」というある種の達成感みたいなものが湧き上がってくる。

ところで、僕は千頁読破記というテーマは素晴らしいと思ったことがある。他の読書感想文は、“一冊の本”に絞って書くものであるし、よほど本に意欲がある人でないと“複数の本”の感想文を書くことは滅多になくと思う。しかし、千頁読破記は“複数の本”を読むことができるものであり、その選び方も、シリーズもので通す人や、あるいは別々の作品を選ぶ人など様々だ。僕の場合、シリーズものはその独特の世界観へ引き吊り込まれる反面、著者による文の味や登場人物の変化に乏しいので、あまり好んでは選ばない、よって、選んだのは後者である。

さて、この千頁読破記で僕が感じたこと。それは、どの本にもそれぞれに伝えたい“感動”や“テーマ”があっておもしろい、ということだ。これをどのよう

にして描けるかで、その作品の輝きや見映えが違ってくる。そして、著者によって変わるその文章表現。今回、僕が読んだ数冊の本でも、書く人が違うだけで全く別物になることを知ることができた。独特の文章は、初めこそとっつきにくい部分もあるものの、その魅力にとりつかれば、あっという間に引き込まれてしまう。今回読んだものの中に、“自分という存在”“他者という存在”を、現実と夢が交錯する中で見つけ出す……というものがあった。友達から薦められて読んだものだが、とても独特なこの世界観を、見事な情景描写や心理描写で描いているものだから、睡眠時間すら忘れて読んでしまったほどだ。そして、そのアナザーストーリーものもすぐに夢中で読んでしまった。

今回、これらの本を読むことによって、自分の中に新しい“目標”や“大切さ”を取り込むことができた。どの作品にも「恋愛」「友情」などの、ありきたりながらも大切なテーマが散りばめられていて、有意義な読書をすることができたと思う。文章から伝わる心。それは、筆者が僕たちに贈ってくれる様々なもの。生きていくために必要なものや、新しい感動、そして大切なものに気づかせてくれる、新しい教育なのかもしれない。文字が大嫌いな人も、僕みたいにファンタジー小説などの入りやすい世界からでも読み始めて欲しいと思う。

今年の読書で、TVや音楽と同じように、本もまた、人に何かを与える貴重な“文化”であると、再認識できた。数字だらけの勉強も大切だが、たまには本を読んで心を癒すことも大切だ。来年もまた、できるという素直に思った。

蕪木統文 水月 498
南房秀久 SHADE Lost in NY 298
三枝零一 ウィザーズ・ブレインV 359
計1,155ページ

(かしわざい・たかひで)

北川さんの作品を読んで

2年C組 三谷 汐里

北川さんは『愛していると言ってくれ』『ビューティフルライフ』、最近話題となったものでも『オレンジデイズ』など数々の有名なドラマを手がけている人気脚本家です。北川さんの作品はいつもとても人気があり、その証拠に、ドラマでは高視聴率を保持し、また、小説の方でもベストセラーとなったこともあります。私も北川さんの作品に魅了された一人です。

北川さんの作品にはいつもとても心に残る言葉(台詞)があります。本当に心に響きます。人としてその言葉(台詞)に私自身が説得させられるんです。いくつか北川さんの作品より抜き出して紹介します。

『愛していると言ってくれ』より。響啞の主人公晃次に対して相手役の紘子が言った言葉です。「一そんなに、そんなに……違うの？聞こえるのと聞こえないのが。私とあなたはそんなに違うの？！」そういう考え方もあるんだ……最初私は、何か光る物を見つけた時のように少し驚いていて、嬉しくなっていました。確かに人間の五感の内の一つなんだ、残りの四感が残っている！と思いました。「海はどんな音してる？」「自分の声が自分で分からない。」と言われたら私が伝えてあげたらいいんだ！とか思いました。そしたら五感にかわりはない！とかとも思いました。

『ビューティフルライフ』より。車椅子に乗っている主人公杏子に、相手役柊二が言った言葉。「どんな風に見えるのかなあって思って。違うんだらうな。車椅子だとさ、いつも目の高さ100センチぐらいでしょ。見える世界、違うんだらうな。」この言葉を受けて最後に杏子が言った言葉。「この世界は綺麗だったよ。高さ100センチから見る世界は綺麗だったよ、あなたに会って、私の人生は星屑をまいたように輝いたんだ……。」とても心に残る素敵な言葉でした。車椅子だからといって、妙に優しくするのはなく、ありのままの態度がとても印象的でした。素直なのが1番なんだなと思いました。

私は、偏見の心なんてないと思っていました。けれど、相手を見て1呼吸おいて意見を述べている時点で偽善者なんだなって。素直になろうと思いました。

最後に。北川さんの作品は本当にお薦めなので、物語のほんの1部分だけ抜き出したものを読んでピンとこないと思います。だから、是非是非読んでみてください。

北川悦子 愛していると言ってくれ 349
ビューティフルライフ 359
君といた夏 315
計1,023ページ

(みたに・しおり)

読書感想文 佳作作品

34丁目の奇跡を読んで

1年2組 谷口 進哉

この物語は、ニューヨークのある老人ホームに暮らす、クリス・クリングルという名の老人がマンハッタン34丁目の百貨店にサンタクロースとして雇われ、そこから不思議なことが次々に起こるといふ、大人のファンタジー的な物語である。この主人公のクリスという老人は、子どもたちを喜ばせることしか考えていない。そして、彼のことを“頭のおかしなおじいさん”と思っていた人たちも、次第に彼を信じるようになり、信じる心が人々に幸せをもたらしたという話だ。

それから僕は、あとがきを読んで驚いた。この本の原作は1947年にアメリカで書かれ、2001年に初版復刻版が出されている。つまり、50年にわたって絶えることなく読みつがれてきたのだ。そして僕は、訳者があとがきの最後に書いていた、“「34丁目の奇跡」の出番は西暦2000年をこえた今なのかもしれない”という言葉に共感した。なぜなら、このクリスのような人こそ、今の時代になくってはならない人だと思うからだ。

今、僕らの世の中には、この本の中の出来事と逆のことが起きている。各地でテロが起き、犯罪が増加し、安心して外を歩くことができなくなった。そしてニュースは毎日のように殺人事件を伝えている。中でも衝撃を受けるのは、親が幼児を虐待して死なせたり、子どもが親を刺し殺すといった事件だ。他人よりも長い時間を共に過ごし、助け合い、支え合っていくはずの家族の関係が、壊れはじめているのだろうか。また、ニュースを見ていると、逮捕される前の犯人がインタビューに答えて、「だれが殺したんでしょう。かわいそうに。」などと悲しげな顔で言う。その様子はどこから見ても、どこにでもいる普通の人だ。殺人事件の犯人の隣近所に住む人もこう言う。「いつも笑顔であいさつしてくれた。」とか「やさしい人で、よくお子さんと遊んであげていた。」と。僕は、殺人をするような人とそうでない人の違いは、こんなにも分からないものなのかと思う。だとしたら、全ての人が恐い。例え親切にされても、何か裏があるんじゃないかと疑ってしまう。自分の後ろを歩く足音すら、不安だ。こんな世の中で僕たちは何を信じればいいのか。何を……。そしていったい誰を?“平和で安全でみんなが幸せに暮らせる社会をお約束します。”とマイクで

叫んでいた政治家が、人々の信頼を集めて当選したその次の日、お金を渡して票を集めた容疑で逮捕される。だから、僕は思う。信じて無駄だと。

この本の中にも、過去の不幸な経験から何も信じることができなくなっていたドリスという女性が登場する。だが彼女は、クリスと知り合ってからさまざまな出来事を通して人を信じることや希望をもつことの大切さに気付く。そしてその結果、彼女は本当の幸せをつかむことになるのだ。

だから、この物語は僕のような読者に語りかけてくる。どんな世界でも、親切とか思いやりとか、人を信じる心のような“すべての善いもの”が敗北を喫することはないのだと。だとしたら、僕自身も、信じる心を取り戻さなければならぬのだろうか。この世界にクリスのような人がいないとしても。

僕はこの夏、知り合いに頼まれて、ボランティアで地元の夏祭りの手伝いをした。暑い中で必死になって削ったかき氷を子どもたちに差し出した時、思いがけず、“ありがとう”の言葉と、本当にうれしそうな笑顔が、僕に“すべての善いもの”というクリスの言葉を思い起こさせた。そしてクリスが子どもたちを喜ばせることしか考えていなかったということも……。

そのせいなのか、自分でもよくわからないけれど、この頃になって、やっと僕はこう思えるようになった。どんなに暗い世の中になっても“すべての善いもの”を敗北させるわけにはいかない。たとえ、クリスのようにはなれないとしても、自分なりのやり方で“善いもの”を追い求めていこう。だれも信じられないと嘆くより先に、自分自身が人から信用されるような誠実な人間になる必要があるだろう。犯罪の増加を嘆くより先に、自分はどんなことがあっても、人のものを盗んだり人を傷つけたりしないと決意していなければならないだろう。世界中で起きている悲惨な出来事に絶望してしまうよりも、自分自身が変わるべきだ。そのためには、ほんの小さなことから始めていくしかない。例えば、今まで以上に家族や友人に思いやりを示すことだってできるし、何か人の役に立つことを考えて、実行することだってできる。

何かが狂ってしまった世の中で、何の希望も見い出せなかった僕は、今、ほんの少し明るい未来への希望を抱いて、歩き出した。

ヴァレンタイン・ディヴィス 34丁目の奇跡
(たにぐち・しんや)

図書委員会から

古本市の報告

3年C組 梅本 忠彦

今年も自分たち図書委員は皆楽祭で例年通り古本市を開催しました。

古本市では学生や先生方に読んでしまった本や聞いてしまったCDを持ってきてもらい販売しています。そして古本市で得られた売上金は図書館をより良くするために使われます。去年は一昨年度と昨年度の売上金の合計11,566円の予算の中から、図書館に植

木(1000円程度)を1つ購入しました。今年度の皆楽祭では4,010円の収入を得ることができたので合計すると予算にも余裕ができました。今年は要望に応えられる幅が広がったので、図書館に入れてほしいものがあればクラスの図書委員に言ってください。

今後とも図書委員一同、より良い図書館を目指してがんばっていきます。本が好きな方はもちろん、それほど興味がない方も是非1度は図書館をご利用ください。

(うめもと・ただひこ)

映画「12人の怒れる男」と テレビ(ドキュメンタリー) 「日曜日の殺人事件」

一般教育科 物理 明神 教久



映画「12人の怒れる男」は1959年に作成されたそうです。アメリカのある大都市で、殺人事件を起こした(といわれる)17歳の少年について審理が終わり、12人の陪審員の討論が始まったところから始まります。11人が有罪とする中で、ひとりの陪審員は無罪を主張し、議論が長引きます。種々検討するうちに次第に無罪に賛成する人が増え、ついには全員が無罪に賛成し、その結論を提出して終わります。ひとりの人の疑問点を深く調べるうちに次々にあらたなる疑問点が生じて次第に無罪判決への流れに変わっていく様子が12人の克明な描写で再現されています。なお、この物語は「虚構」です。私は、この映画を、若い頃、中年の頃、最近(5年位前)と見ました。2回目3回目はテレビで見ました。(1回目もそうかも)3回目は途中からビデオに撮り、保存しています。物語の途中で、捜査や裁判の審理が不十分だなと感じるところが何ヶ所かあります。

テレビ(ドキュメンタリー)「日曜日の殺人事件」は3年位前NHKBBSで放送された実録記録(アメリカでの事件;製作2001年)です。弁護団の調査活動や裁判中のやり取りも含まれています。日

曜日の朝、旅行者の夫人が若い男性に銃殺されハンドバッグを強奪される事件の記録です。警察の捜査により付近にいた若い男性(15才)が逮捕され、事件のとき一緒にいた夫の目撃証言により、裁判に掛けられます。弁護団は、被告の家族の話や、捨てられたハンドバッグを拾った人の話や、捜査にあたった警官の話などにより、無罪を主張します。裁判の中でも、警察の捜査が不十分であったことや、被告の取調べ中に暴行があったことなどを明らかにしていきます。陪審員は評決で無罪を下します。その後真犯人が逮捕されたことも追加で説明されます。この物語は、「実話」です。

両方を見終わった頃には、日本では[陪審員]制度はありませんでしたが、今後はありそうなので、これらの物語に無関心ではおれません。誰かがその役目を引き受け有罪・無罪を的確に判断しなければなりません。その責任の重さを考えると、気も重くなります。私は、子供の頃から、怪人20面相、ホームズ、江戸川乱歩など探偵ものが好きで、今となっては内容は殆ど忘れていますが、よく読みました。コロンボ刑事や銭形平次親分や遠山の金さんのように、本やテレビでは謎を解き明かし、真犯人を見つけてくれるので、その責任も多少は軽くなるかもしれません。一方、上の2例のように誤った判断に対して、少数ながら意見を述べることができるだろうかと不安になります。学生の皆さんは、知識もさることながら、判断力を養う努力もしておいてください。

(みょうじん・たかひさ)

本との出会い

制御情報工学科 逸見 知弘



私が「今まで読んだ本の中で深く印象に残った本は？」と聞かれれば、真っ先に思い浮かぶのが乙武洋匡氏の『五体不満足』である。

有名な本なので、すでにご存知の方も多いと思われるが、この本は、“先天性四肢切断”と呼ばれ、生まれつき手足が短い障害をもつ作者の乙武洋匡氏の、誕生から大学入学までの半生を描いたものである。

印象に残っている理由として、まず作者である乙武氏が、私と生年月日が同じであるということ、本の中の時代背景がリアルに頭の中に思い浮かぶことが出来たということ、私のもつ障害者に対する考え方が、この本を読む前と読んだ後で180度変わったという事があげられる。というのも、私は小学校の時、同じ地区に住む低学年の障害者を学校に連れて行っていた時期があり、多少なりとも障害者との関りを持っていた私は、自分なりに障害者に対する意見というものを持っていた。それは、「社会的弱者は強者が助けてあげるべき」=「障害者は健常者が助ける」という偏った考え方であった。あなたが間違いではなく、障害者に助けが必要な時は周りの人が助けてあげる必要がある。問題な

のは、当時の私は障害者を一方的に弱者、健常者である自分は強者と勝手に決めつけていたことだ。

作者はこの本の中で、『心のバリアフリー』の必要性を説いている。これは、例えば、めがねをかけている人は、目が悪いからめがねをかけていて、足が不自由な人は車椅子に乗っている。なのに、めがねをかけている人はかわいそうとは思わず、車椅子に乗っている人はかわいそうに思うのは、障害者は弱者という考え方からである。しかし、車椅子に乗っている人が何でも出来るという認識があり、障害者に対する慣れや理解が生まれるとその考え方は変わる。これが『心のバリアフリー』だと述べている。私の場合もまさしくその通りであった、障害者は弱者と勝手に決めつけ理解しようとせず、心にバリアを張っていたのだ。

またこのようにも述べている「手足がないのは、僕の欠点ではなく特徴」世界中見渡しても自分とまったく同じ特徴をもった人間などいるわけではない、たった一人しかいない人間なのであれば、その人にしか出来ない役割があるのだから、僕らは、もっと自分自身を大切にしなければならない。誇りをもたなければならないと述べている。

人間、大なり小なり欠点をもっている。しかしそれを他人にはない自分の特徴と捉えることで、今までのコンプレックスを消すことができる。

この本は、障害者に対する根本的な考え方を教えてくれたと同時に、自分自身を見つめ直す機会を与えてくれた一冊であった。

(へんみ・ともひろ)

対話形式〔CD-ROM付〕による 『橋梁設計シミュレーション』

中井博・当麻庄司・丹羽量久共著（共立出版）

本書では、各種橋梁の代表的な合成桁橋、およびトラス橋の実設計に焦点を当て、スパンや幅員を自在に変化させて設計できる対話形式のプログラムを添付のCD-ROMにまとめている。従って、設計結果をみながら入力を修正して、順次、設計を進めることができるように構築されている。

建設環境工学科教員 松原 三郎

『水滸伝』

北方謙三著（集英社）

中国という国は長い歴史の中で多くの伝説や物語が語り継がれてきました。「水滸伝」もその1つです。宋の時代、腐りきった世の中を糺すために、宋江を中心とする数多くの英傑が梁山泊を拠点として宋と戦うというものです。是非一度読んでみてください。

3年C組 梅本 忠彦

『HAPPY NEWS』

社日本新聞協会+HA…（ソニーマガジンハウス）

日本新聞協会が、新聞を読んでハッピーになった記事を400字のコメントで募集し、約4000の応募の中から選ばれたもの。HOTで「世の中すてたものじゃない」という気分になれる本。2004年版、P119の私のも見て。人文の講義がなかったら青いバラの記事は目にしなかっただろう。

5年S組 岸 寿子

『学校を出よう！』

谷川流著（メディアワークス電撃文庫）

シリーズ第一巻では、実の妹の幽霊に取りつかれEMP学園という超能力者ばかりいる学校に放り込まれた主人公と、その周りのぶっ飛んだ人々を描いた学園物です。最高に訳の分からないスバラシイ学園生活をお楽しみ下さい。

1年4組 瀧井 宏起

『生協の白石さん』

白石昌則・東京農工大学の学生の皆さん（講談社）

なぜか最近のベストセラー。東京農工大学の生協に寄せられる「ひとことカード」に対する生協職員・白石さんの回答・コメント集。どんな質問や要望にも答えてくれる白石さんの姿勢に心が温まります。本校にもこんな購買部があるといいですね。

機械工学科教員 小島 隆史

『蝉しぐれ』

藤沢周平著（文藝春秋社）

何なんだ、この二度と手に入らないと分かったときの胸の苦しさ
声にならない、息が出来ない。そして、少年文四郎の成長。
もう蝉は鳴いていない、土の中……
最後まで読んでやっと感じる救い……
蝉しぐれが聞こえてくる！もう、読むしかない！

4年E組 多田 悠一郎

『建設工事の安全管理』

レイモンド・E・レビット ナンシー・M・サメルソン 訳 三浦裕二・吉川勝秀（山海堂）

土木、建築に携わる技術者は、大学教育は勿論のこと、建設工事の安全管理について一切教育を受けることなく現場に出るのが現状である。そこで、本書は建設工事の安全管理について素養なく現場に出て、事故に直面して安全の大切さを痛感される建設現場で働く人々に幅広く活用できる本。

建設環境工学科教員 松原 三郎

『ハリー・ポッター(シリーズ)』

J・K・ローリング

ハリー・ポッターが成長する過程や、先の読めない複雑なストーリー展開と共に、次々と映画化等の話題性から、今や世界中で大ベストセラーとなっているハリー・ポッターシリーズ。男として人間として、そして魔法使いとしてどんどん成長していくハリー・ポッターは要注目です。

1年2組 和泉 悟

『ダーリンは外国人 —外国人の彼と結婚したらどーなるの？ルポ。』 小栗左多里（メディアファクトリー）

本編は、実際に国際結婚した著者が旦那との日々を送るうち、気が付いた外国(人？、語？、文化？)と日本との違いを、漫画を用いて楽しく紹介している。“日本人にとっての常識が、外国人にとっては非常識”ということがよくわかり、目から鱗が落ちる一冊である。同著者の「ダーリンは外国人(2)」や「ダーリンの頭の中」(ともにメディアファクトリー)も面白い。

制御情報工学科教員 由良 諭



から
◆図書館に新しく入れた本



『ブルースの世界オフィシャル・ガイド』

ブルース&ソウルレコーズ (編集)

ブルースを感じないロック/ポップス/ジャズは100%ゴミだ、と言った知人がいる。私も95%ぐらい賛成です。(残りの5%については個人的に問い合わせてください。)ブルースのことをよく知らない人が気楽に入っていけるような入門書がこれまであまりなかったけど、この本は楽しい旅行ガイドみたいでなかなかイイ線いっていると思う。

一般教育科教員 高橋宏明



『火天の城』

山本兼一著 (文藝春秋)

この本は安土城の築城の中心となった大工の一門の話です。織田信長に恨みをもつ一派に妨害されながらも、身を粉にして働く姿からは、技術者にも同じようなものがあると思いました。

1年3組 松良 明彦

『死語にしたくない美しい日本語』

日本語倶楽部(編) (河出書房新社)

最近は「日本語ブーム」で、テレビのクイズ番組でもよく取りあげられます。本書では、聞いたことはあっても正しい意味は?と問われると、答えに窮するたくさんの美しい言葉が紹介されています。恥ずかしながら私も半分くらいしか正しく答えられませんでした。みなさんはどうでしょうか?

機械工学科教員 吉永 慎一

『アースダイバー』

日本語倶楽部(編) (河出書房新社)

日本文化のなかに「縄文」的なものを探るという話は今では珍しくもないが、この本は縄文時代の地図を持って東京を歩き、現代の東京と縄文を直接リンクさせる大胆かつスリリングな試み。これは本当の話なんだろうかと、悩むよりも、このあまりに斬新で刺激的な東京像の開く新たな風景を楽しもうがずっと生産的だと思う。

一般教育科教員 高橋 宏明

早野先生からの寄贈図書

前校長早野浩先生より図書館にご寄付いただきました。少しでも学生の皆さんのお役に立てればという先生のあたたかいお心遣いです。この趣旨に基づき下記図書を購入しましたので、大いに、また、大切に利用してください。

書名	分類記号	著者等
マインドマップ・ノート術	141.5	ウィリアム・リード
生きて死ぬ智慧	183.2	柳澤桂子
古代の都を復元する	210.3	岡田茂弘
日本の船を復元する	210.3	石井謙治
図解古代ローマ	232.8	スティーヴン・ビースティイラスト
図解古代エジプト	242	スティーヴン・ビースティイラスト
図説日本戦陣作法事典	399.1	笹間良彦
ガリレオの指	404	ピーター・アトキンス
脳と妄想	491.371	茂木健一郎
日本の城を復元する	521.8	平井 聖
復元模型で見る日本の城6	521.8	木戸雅寿ほか
復元模型で見る日本の城7	521.8	木戸雅寿ほか
火燃ゆる強者どもの城	521.82	
京都御所 大宮・仙洞御所	521.82	京都新聞出版センター編
桂離宮の建築	521.82	佐藤 理
城のつくり方図典	521.82	三浦正幸
姫路城	521.82	
城の楽しい歩き方	521.823	木戸雅寿編集
中世・戦国・江戸の城	521.823	
城の見方・歩き方	521.823	
町家再生の技と知恵	521.86	京町家作事組編
風土が生んだ建物たち	521.86	マガジントップ編
武器	559	ダイヤグラム・グループ編
江戸の旅と交通	682.1	竹内誠監修
大阪冬の陣図	721.087	桑田忠親ほか
島原の乱図	721.087	桑田忠親ほか
戦国武家風俗図	721.087	桑田忠親ほか
決断力	796	羽生善治
「頭がいい人」と言われる文章の書き方	816	小泉十三と日本語倶楽部
みるみる身につく! イメージ英語革命	830	大西泰斗
30日完成はじめてのTOEICテスト完全対策	830.79	迫村純男
TOEIC TESTパーフェクトテキストリーディング	830.79	村川久子
TOEICテスト最強トリプル模試	830.79	中村紳一郎
「3語脳」英単語記憶法	834	守 誠
ドラゴン・イングリッシュ	836	竹岡広信
東京タワー	913.6	リリー・フランキー

書名	分類記号	著者等
恋バナ 赤	913.6	Yoshi
恋バナ 青	913.6	Yoshi
シリウスの道	913.6	藤原伊織
六〇〇〇度の愛	913.6	鹿島田真希
枯葉の中の青い炎	913.6	辻原 登
ナラタージュ	913.6	島本理生
容疑者Xの献身	913.6	東野圭吾
花まんま	913.6	朱川湊人
東京奇譚集	913.6	村上春樹
震度0	913.6	横山秀夫
土の中の子供	913.6	中村文則
孤宿の人 上	913.6	宮部みゆき
孤宿の人 下	913.6	宮部みゆき
ハッピーバースデー	913.6	青木和雄
介護入門	913.6	モブ・ノリオ
明日の記憶	913.6	荻原 浩
ロズウェルなんか知らない	913.6	篠田節子
信長の棺	913.6	加藤 廣
τ(タウ)になるまで待って	913.6	森 博嗣
ルパンの消息	913.6	横山秀夫
天国からの道	913.6	星 新一
ネバーランド	913.6	恩田 陸
破線のマリス	913.6	野沢 尚
左手に告げるなかれ	913.6	渡辺容子
陰の季節	913.6	横山秀夫
その日のまえに	913.6	重松 清
天使のナイフ	913.6	薬丸 岳
4TEEN	913.6	石田衣良
天皇ごっこ	913.6	見沢知廉
ネクロボリス 上	913.6	恩田 陸
ネクロボリス 下	913.6	恩田 陸
さよならバースデー	913.6	荻原 浩
魂萌え!	913.6	桐野夏生
サウスバウンド	913.6	奥田英朗
天命	914.6	五木寛之
最後の瞬間のすごく大きな変化	933	グレイス・ペイリー

■新着DVD

タイトル
オーシャンズ12
ブリジット ジョーンズの日記
ブリジット ジョーンズの日記 きれそうなわたしの12か月
クライシス オブ アメリカ
ネバーランド
ステップフォード・ワイフ
ボーン・スプレマシー
マイ・ボディガード
アレキサンダー
24 -TWENTY FOUR- シーズン1 Vol.10
24 -TWENTY FOUR- シーズン1 Vol.11
24 -TWENTY FOUR- シーズン1 Vol.12
サベイルランス/監視 (特別編)
ザ・インタープリター
アビエイター
コンスタンティン
クローサー
天空の城ラピュタ
風の谷のナウシカ
ナショナル・トレジャー
悪魔を憐れむ歌
ザ・クライアント 依頼人
セルラー
ミリオンダラー・ベイビー
バットマン ビギンズ
宇宙戦争
サラ・ブライトマン ラ・ルナ・ライブ・イン・コンサート
ロボコン
ハウルの動く城

■新着CD

タイトル	アーティスト
空の風景	夏川りみ
狂気	PINK FLOYD
ルースター	ROOSTER
ハーツ・オン・パレード	AMERICAN HIFI
オペラ座の怪人 オリジナルサウンドトラック	Andrew Lloyd
ウィズ・ティース	NINE_INCH_NAILS
自己ベスト	小田和正
ラモーンズの激情+8	RAMONES
絆	美空ひばり
バック・ホーム	ERIC CLAPTON
ア・ビガー・バン	The Rolling Stones
ハヴ・ア・ナイス・ディ 特典DVD付	BON JOVI
RIOT ON THE GRILL	ELLEGARDEN
THE BLUE HERB	SELL OUR SOUL
異国の香りアメリカン・ソングス	カエターノ・ヴェローゾ
ジューサ	ジューサ
MORELENBAUM2/SAKAMOTO	CASA 坂本龍一
ブルー・リバー	ERIC ANDERSEN
ザ・ウィンド	WARREN ZEVON
そうかな	小田和正
ゴールド	CARPENTERS
ブラックハート・マン	BUNNY WAILER
DRAGON	JAKE SHIMABUKURO
天使の死 オデオン劇場1973	ASTOR PIAZZOLLA
ミシェル・ペトルチアーニ・トリオ	MICHEL PETRUCCIANI
プリ・スロン・プリ	PIERRE BOULEZ
メイク・ドゥー・ウィズ・ワッチュー・ガット	SOLOMON BURKE
ヴィスタス	THE BAD PLUS
ドビュッシー&ラヴェル作品集	Carlo Maria Giulini
ヨハン・セバスティアン・バッハ他	Gulda spielt...
マーラー交響曲第6番「悲劇的」	KLAUS TENNSTEDT
マーラー交響曲第7番「夜の歌」	KLAUS TENNSTEDT
WHITE ROOM	YOSHI LOVINSON
チャヴェス・ラヴィーノ	Ry Cooder
アンソロジー	IGGY POP
ダウン・ザ・ロード	VAN MORRISON
ザ・カレッジ・ドロップアウト	Karpe West
トーキング・ブック	STEVIE WONDER
マイ・ジェネレーション	THE WHO
ベートヴェン チェロとピアノのための作品全集	Andras Schiff
ストラヴィンスキー 兵士の物語	PIERRE BOULEZ
アート・アンサンブル・オブ・シカゴ	URBAN BUSHMEN
新タイ受難曲-永遠の水	TAN DUN
ロス・ロンリー・ボーイズ	LOS LONELY BOYS
ノー・ディレクション・ホーム:ザ・サウンドトラック	BOB DYLAN
キラーストリート	サザンオールスターズ
「わが祖国」全曲 クーベリックチェコ・フィル	スメタナ

冬季休業中の長期貸出について

恒例の冬季休業中の長期貸出（学生のみ対象）を下記のとおり行います。

貸出開始日：12月19日(月)～
返却期日：1月11日(金)
貸出冊数：20冊まで貸出OK

時間に余裕のある休業中に、読書三昧というのはいかがですか！！



編集後記

「図書館だより」第36号をお届けします。今年はNHK日曜日の大河ドラマが「義経」でした。今、机上には司馬遼太郎の『義経』があります。NHKの“滝沢”義経より“司馬”義経に、現実の“義経”を感じながら読んでいます。読書のきっかけはいろいろあります。冬休みは自分のアンテナの感度を少し上げて読書の幅を広げてはいかがでしょうか。冬休みは長期貸出を行っています。

(図書館長)